



コロナ禍を乗り越える

関係機関の皆様、日ごろから当院と様々な連携を進めてくださり、感謝申し上げます。

昨年来のCOVID-19の蔓延で、どの施設もご苦労なさっていることと思います。当院も例外ではなく、新型コロナウイルスのためにがんセンターとしての機能を落とすことがないように、感染対策に力をいれてまいりました。当院外来を受診された患者さんがCOVID-19に罹患していたことは何度かありましたし、ICUで重症のCOVID-19の患者さんの入院治療をしたこともありましたが、これまでの感染対策が功を奏したのか、幸い院内感染を起こすことなく、なんとか通常通りのがん医療の機能を維持してまいりました。

しかし、COVID-19の蔓延は、医療機関に対する直接的な影響に加え、様々な形でがん医療に悪い影響を及ぼしました。昨年度は、上部消化管内視鏡検査や便潜血検査など、一部のがん検診ががんセンターの周辺の市町で行われませんでした。また、患者さんが感染を恐れるあまり、病院を受診すること自体を控える傾向もみられました。これらの結果、当院の昨年度の手術件数は、一昨年度に比べ、総件数で4%、全身麻酔手術では3%減少し、特に胃・大腸の手術で減少が目立ちました。今年度にはいつてからは、かなり進行してしまった症例が増え



静岡県立静岡がんセンター 病院長
上坂 克彦

ている印象があり、がん検診や医療機関への受診抑制の悪影響によるものではないかと懸念しています。

幸い今年度は、市町のがん検診も例年通り行われます。ワクチン接種も加速してきています。地域の患者さんには、通常通りの検診や受診を呼び掛け、一人でも手遅れにならないようにしたいと考えています。今年度も、この地域のがん医療がますます円滑に進むよう、ご協力・ご指導をよろしくお願い申し上げます。



病院本棟の裏(庭園側)から見た静岡がんセンターです。春は河津桜が満開です。

もくじ CONTENTS

病院長挨拶	P1	診療科のご紹介	P4~5
副院長の紹介	P2	しずがんアート探訪	P5
部署紹介	P3	地域医療連携室からのお知らせ	P6

当院には5名の副院長が、各診療科や部門の業務に加え病院全体の方針決定や運用の責任者としての役割を分担しています。今回と次号の2回に分けて、副院長それぞれの業務や役割についてご紹介します。



■ 安井 博史 副院長

皆様、平素よりお世話になっております。内科担当副院長の安井博史（やすいひろふみ）です。

この度、このような自己紹介の機会を頂きましたので、私の当院における所管業務について少し紹介させて頂きたいと思っております。私は化学療法、支持療法、緩和ケア、院内感染対策、ならびに臨床研究や企業治験などの臨床試験、臨床研究倫理審査、そして昨年度より当院はゲノム中核拠点病院に指定を受けることが出来ましたので、ゲノム医療や遺伝診療も担当しております。

直近で一番苦労したことは、ゲノム中核拠点病院として県内拠点病院と連携しエキスパートパネルを毎週定期的に行う体制整備、そして皆様もご苦労されたと思いますが5月よりコロナワクチン接種が当院でも開始され、2000人を超える職員へ無事に接種完了するための体制整備でした。

昨年度まで消化器内科部長を併任しておりましたが、本年度4月より消化器内科部長は後任の山崎健太郎が就任致しました。私も外来など消化器内科医として今まで通り診療は致しますが、今後とも新体制の消化器内科を何卒宜しくお願い致します。



■ 寺島 雅典 副院長

令和2年度から副院長になりました新米の寺島です。業務としましては診療情報管理室長として診療情報の管理や、院内がん登録などを担当しております。それ以外に外来運営委員会、臨床検査運営委員会、クリティカルパス管理推進委員会、レジデント委員会、手術部・GICU管理委員会も担当させて頂いております。今年からQI室の担当も併任し、適切な臨床指標の設定や、病院経営の改善に関しても検討を開始しております。また、オンラインセカンドオピニオンの導入に関しても検討を進めていまして、今年7月末からの開始を目指しています。更には、次期電子カルテ導入WGのリーダーとして、新システムの構築に関しても検討を進めております。

地域の先生には日頃から大変お世話になっております。今後も紹介状に対する迅速な返書作成や、新電子カルテシステムでのHL7 FHIRの導入などを通じて、円滑な診療情報の提供が図れるように尽力したいと思います。

最後に、外科医としての診療も継続しておりますので、是非患者様のご紹介も引き続き宜しくお願い申し上げます。



■ 飯沼 むつみ 副院長

看護職副院長の飯沼です。どうぞよろしくお願い致します。副院長職に就いて2年目を迎えています。看護師の副院長は私で5人目となります。代々の諸先輩方が築き上げたものを手本とし、看護職副院長の果たす役割を考えながら、今自分に与えられた業務をこなしていくのに精一杯の毎日を送っています。所轄業務としては、看護部門支援、患者家族支援、栄養関係、認定看護師教育課程、多職種がん専門レジデント、病院ボランティア、業務負担軽減です。特に現在は多職種の業務負担軽減について関係職種と検討を重ねています、静岡がんセンターに勤務する職員が、いきいきと働き続けられる職場であるように、そして、看護師の強みを活かし、当院の「患者さんの視点の重視」という

理念の実現に向かって看護の力が十分発揮されるよう副院長として微力ながら頑張っています。

日本は急激な高齢化と人口減少という時代を迎え、がん患者さんの増加とともに多種多様な課題をもつ高齢がん患者さんが増加しています。病院完結型から地域完結型へ看護を展開していく必要があり、「地域包括ケアシステムの構築」の実現を強く感じています。コロナ禍であっても、このような時だからこそ地域の皆様との情報交換、連携を密にしていく事が重要と考えます。今後ともご指導をお願いいたします。

部署紹介 コーナー

薬剤部

薬剤部長 篠 道弘

薬剤部は、その名称が示す通り、薬に関係する業務を行っている部署です。医薬品を購入し、必要とする病棟や部署に配置し、あるいは処方に基づいて調剤や無菌調製等を経て必要な形や数量にして供給しています。

最近では、これらの業務に加え、医療安全の観点から種々の確認業務も増えています。例えば、経口抗がん剤が処方された際に患者さんの検査値を参照し、処方された抗がん剤を使用しても問題ない状態であることを確認しています。注射用抗がん剤がオーダーされた場合にも同様の確認を行っています。そもそも抗がん剤毎に確認すべき検査値をリストアップし、基準値を作成する必要があります。

また、当センターでは多職種で構成された緩和ケアチームや抗菌薬適正使用支援チーム、栄養サポートチーム等の活動も活発です。これらのチームには当該領域の専門知識を習得した薬剤師が加わり、各領域の医薬品の使用状況を入念に確認、時には立案や提案を行っています。

最近では、他の医療機関を並診している患者さんへの情報提供にも取り組み始めたところです。



<スタッフ>

常勤薬剤師	48名
多職種レジデント(薬剤師)	5名
会計年度任用職員薬剤師	3名
薬剤助手	5名
調剤補助員	5名
事務職員	2名

【おくすりコーナー】



外来患者さんへのお薬のお渡し、薬に関する説明・相談対応を行っています。

【入院持参薬コーナー】



入院時に安全に治療や検査が行えるよう、入院当日に患者さんが服用している薬について、薬剤師が確認を行っています。

【化学療法センター内 ハザード室】



院内の注射用抗がん剤の調製を安全キャビネットが無菌的に行っています。

【薬剤部内クリーンベンチ】



入院患者さんの高カロリー輸液の無菌調製を行っています。

薬剤部では様々な資格・認定を受けた薬剤師が活躍しています。

資格	人数
日本医療薬学会 がん専門薬剤師	3
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	3
日本薬剤師研修センター 研修認定薬剤師	4
日本医療薬学会 認定薬剤師	4
日本病院薬剤師会 感染制御専門薬剤師	1
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師	1
日本静脈経腸栄養学会 NST 専門薬剤師	3
日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師	3
日本糖尿病療養指導士認定機構 糖尿病療養指導士	4

～ 診療科の紹介 ～

今年度新任の部長が着任した診療科をご紹介します

皮膚科

(部長 吉川周佐)

皮膚科では皮膚に生じたがんの治療を担当しています。皮膚がんには悪性黒色腫、扁平上皮がん、基底細胞癌など様々な固形がんの種類がありますが、当科では全てに対応しています。皮膚がんは病理診断が難しい症例も多く、全ての症例において週1回の病理診断科とのカンファレンスにて診断を決定し治療に入っています。治療は多くの症例で手術療法が初期治療となりますが、全身麻酔・局所麻酔合わせて週4～5件の手術を行っています。薬物治療は、悪性黒色腫を中心に免疫チェックポイント阻害薬や分子標的治療薬での治療を月2.5件前後行っており、その他の癌種においても積極的に治療を行っています。切除不能症例には、放射線治療も放射線・陽子線治療センターと月2回のカンファレンスにおいて個々の患者さんに合わせた治療を検討しています。



当科では皮膚がんに対して手術治療・薬物治療・放射線治療・緩和治療など患者さんの状態・状況に合わせあらゆる方面からの治療を行います。どの治療法においても様々な可能性を検討しがんセンターならではの治療も積極的に行う方針としております。皮膚や皮下、粘膜部に生じた腫瘍に関しましては、どの様な症例においても対応致しますので、お気軽にご紹介ください。

地域医療機関の
みなさまへの
メッセージ

頭頸部外科

(部長 向川卓志)

口腔内、顎顔面、咽頭・喉頭(のど)、唾液腺や甲状腺に発生するがんを総称して頭頸部がんといいますが、頭頸部外科ではその頭頸部がんの手術治療を主に担当しています。頭頸部がんは全てのがんの約5%と、他のがん種と比較して発生頻度が少ない一方で、解剖・機能が非常に複雑であり、手術には高度な専門的知識と技術が必要とされます。



当科では毎年400件以上の頭頸部腫瘍に関する手術を行っており、全国有数の頭頸部がん専門診療科です。頭頸部は、発声、嚥下、呼吸といった生活に重要な機能を担っていることから治療には機能温存と根治性の両立が必要であり、早期がんに対しては低侵襲の内視鏡下手術を積極的に導入しています。一方進行がんに対しては他診療科と合同で遊離皮弁による再建移植手術や頭蓋底手術の他、化学放射線治療後の再発例に対する救済手術など高度の技術を要する手術も行っております。

地域医療機関の
みなさまへの
メッセージ

頭頸部がんの治療は、我々が担当する手術治療に加え、化学放射線治療や陽子線治療、動注化学療法など多岐に渡ります。これらは脳神経外科、食道外科、形成外科、腫瘍内科、内視鏡科、IVR科、放射線陽子線治療科、小児科、眼科、歯科口腔外科、栄養室やリハビリテーション科と連携しチーム医療で行っております。また毎週チームカンファレンスで個々の患者さんに対する治療方針を検討しており、より良いがん治療だけでなく治療後のサポートにも努めています。当科は頭頸部がん治療全般の窓口になりますのでお気軽にご相談ください。

消化器内科では頭頸部、食道、胃、小腸、大腸、肛門、膵臓、胆道がんといった消化器がんの周術期薬物療法、緩和的薬物療法を担当しています。これらのがんに対する標準治療を提供するだけでなく、薬物療法を安全に、安心して受けていただけるよう医師だけでなく、看護師、薬剤師も含めた多職種で有害事象に対応しています。最近では、がんの遺伝子異常をベースにした個別化治療も部分的ではあるものの実地診療に導入されつつあり、当科でも治療方針を決定する際に遺伝子検査結果を参考にすることが多くなっています。また、さらなる有効な治療を開発すべく、臨床研究や治験も行っています。



現在、当科で行っている臨床研究や治験に関する情報についてもご連絡いただければ提供させていただきます。消化器がんに対する薬物療法で何かお困りのことがあれば、また臨床研究や治験への参加を希望される患者さんがいらっしゃいましたら、お気軽にご相談ください。

しずがん 院内アート探訪

このコーナーでは静岡がんセンター庁舎の院内のアート作品をご案内してまいります。今回は病院2階よろず相談付近にある絵画をご紹介します。



<作者略歴>

染人(そめびと)
小川 良子
1946年 静岡県
大井川町(現焼津市)
生まれ。
型紙を使って模様を
染める「型絵染」と
いう技法で、着物・
屏風・パネルなど
数多くの作品を制作。
国内の大きな美術展
での入賞歴があるほ
か、海外でも個展を
ひらいている。

「日本の四季 春・夏・秋・冬」 小川良子 (平成14年3月寄贈)

- 春 平成9年4月・くも膜下出血から奇跡の生還・ICUのベッドから見た
木々の緑と風・光に勇気をいただいた春の緑
 - 夏 心の剣刃は雨・それに負けないあじさいの花・葉先はしずくをはねかえして…
地色は宝石より美しい臭木の水あさぎ彩
 - 秋 びょう びょうと吹く野分きの風・不安・恐れ・その中に稟と咲く、ききょう・
虫の音まで聞こえてきます
 - 冬 南天の朱い実は燃える情熱・雪はあたたかくふんわりと降って 清らかに水仙は
咲く…
- 難を転じてと四季の花は患者さんであり想いです



2021年3月27日～4月11日に身延山久遠寺に於いて開催された、「染人 小川良子 作品展 時空を超えて“愛と共にある世界”」に、展示されました。

トピックス



聖火が街にやってきた!

7月22日開幕の東京2020オリンピックに向けて、6/24(木) 静岡がんセンター地元の長泉町に、聖火がやってきました。当院、乳腺外科の田所由紀子医師がランナーとして参加しました!



地域医療連携室よりお知らせ

【研修情報】

① <がん専門看護研修>

コロナ禍におけるがん看護～発見から終末期まで～

日時：8月28日(土) 午後1時～4時15分

研修方法：オンライン研修会(ZOOM：ウェビナー)

対象者：静岡県内に勤める看護師等

お申込み方法：静岡がんセンターホームページより



<https://www.schr.jp/> (「お知らせ」に掲載予定)

② <がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会>

日時：2021年9月11日(土) 8:30～17:00

会場：静岡がんセンター 研究所 しおさいホール

※厚生労働省の緩和ケア研修会の開催指針に基づき開催するものです。



③ <専門病理医養成研修会> 病理医や細胞検査士等対象の研修会です。

開催時間：13:00～16:20

	日 時	会 場	講師(敬称略)
第1回	9月25日(土)	WEB 研修会 	関西医科大学付属病院 大江 知里 埼玉県立がんセンター 堀井 理絵
第2回	2022年1月8日(土)	サンパレスホテル(静岡)	静岡がんセンター 大池 信之 滋賀医科大学 九嶋 亮治
第3回	2022年2月26日(土)	サンパレスホテル(静岡)	九州大学 孝橋 賢一 がん研有明病院 古田 則行

※上記研修会についてのお問い合わせ先：静岡がんセンター 疾病管理センター

編集 後記

昨年の今頃は、まさか一年後もコロナ禍が続いているとは思いませんでした。マスク生活も1年半以上になり、病棟の看護師の間でこんな会話が聞かれます。「新人さんのマスク取った顔、初めて見た」「院外ですれ違ってもわからないかもね」「外でもマスクしてるから一緒にしょ」「あっそうか…」

医療従事者のワクチン接種は進んでいるようですが、すべての方へ接種完了が待たれます。感染が拡大している地域の医療者の皆さんの疲労がとても心配な今日この頃です。

発行 静岡県立静岡がんセンター 患者家族支援センター 地域医療連携室

〒411-8777 駿東郡長泉町下長窪1007 TEL 055-989-5222(代)

発行責任者 地域医療連携室長 林 さとみ